

ペンディメタリン・リニュロン乳剤 カイトック乳剤	取扱メーカー： 日農 原体メーカー： BASF, TKI
成分： ペンディメタリン〔ジニトロアニリン系 PRTR・1種〕…15.0% リニュロン〔尿素系 PRTR・1種〕……………10.0% その他 PRTR 該当成分： キシレン〔PRTR・1種〕……………1.0% ナフタレン〔PRTR・1種〕……………4.6% メチルナフタレン〔PRTR・1種〕……………11%	性状： 暗褐色澄明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級III

【品目特性】……………

- 作用性の異なる成分を混合し、除草効果の安定、確実性をはかった畑作用の土壌処理型除草剤である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 雑草の生育がすすむと効果が低下するので、雑草の発芽前に散布する。
- 碎土、整地は丁寧に行い、覆土は種子が露出しないよう丁寧に行う。
- スズメノテッポウやキク科雑草が多発する圃場では、登録の範囲内で多めの薬量を使用する。
- マルチ栽培、トンネル栽培では使用しない。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので、希釈水量を多めにするか、降雨の後に散布する。
- とうもろこしに使用する場合、スーパースイート系では薬害を生じることがあるので使用をさける。
- 水田裏作の麦類に使用する場合、排水不良の畑では使用をさける。

- 適用作物（小麦、大麦）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 砂質土壌の保水力の小さい畑では使用しない。又、雨が多量に降り続く時や冠水・浸水しやすい畑では薬害のおそれがあるので使用をさける。
- 激しい降雨が予想される時には使用をさける。
- マルチ栽培、トンネル栽培等での使用は薬害を生じるおそれがあるのでさける。

【安全対策上の注意】……………

- 皮膚に対して刺激性がある。
- 藻類に影響を及ぼすので、使用時並びに使用後も注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器等は適切に処理する。
- 自動車などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意する。
- 衣服等に付着すると着色するので取扱いに注意する。



【適用と使用法】

作物名	適用 雑草名	適用 土壌	使用時期	10 a 当り使用量		使用 方法	適用 地帯	本剤の 使用回数	ベンディメタリ ンを含む農薬 の総使用回数	リニエロンを含む 農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量					
小麦 (秋 播)	一年生 雑草	砂壤土 ～埴土	は種直後～ は種後 5 日 (雑草発生前)	300 ～ 400 ml	70 ～ 100 ℓ	全面 土壌 散布	北海道	1 回	1 回	1 回
小麦				400 ～ 600 ml			東北、北陸			
				500 ～ 800 ml			関東・東山・ 東海、近畿・ 中国・四国、 九州			
大麦		全土壌	は種直後 (雑草発生前)	300 ～ 500 ml	70 ～ 100 ℓ		全域 (北海 道、東北を 除く)			全域
にんじん										
とうもろこし 飼料用とうもろこし			砂壤土 ～埴土	は種直後～ は種後 5 日 (雑草発生前)	400 ～ 600 ml		全域(北海 道を除く)			
				400 ～ 500 ml	北海道					
やまのいも	全土壌	植付後～ 萌芽前 (雑草発生前)	400 ～ 600 ml	100 ℓ	全域	2 回以内 (粒剤は 1 回以内)				